

議長定例記者会見 会見録

日時：平成31年3月19日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 発表事項

○三重県議会 Facebook ページの開設について

2 質疑項目

○三重県議会 Facebook ページの開設について

○議会改革について

○三重県議会 Facebook ページの開設について

1 発表事項

○三重県議会 Facebook ページの開設について

(議長) おはようございます。時間がまいりましたので、ただ今から3月の議長定例記者会見を開催させていただきます。発表事項に入らせていただく前に、先週閉会いたしました平成31年定例会について少し所感を述べさせていただきます。今定例会で可決いたしました平成31年度の当初予算につきましては、大変厳しい財政状況の中で、県民の皆様の安全・安心を守るための取組など喫緊の課題に対して、手厚く計上されているところでもございます。しかし、予算決算常任委員会の委員長報告でもありましたように、非常に財政が厳しい状況の中で、財政改革に向けた取組は待ったなしであるところから、今以上により迅速かつ積極的に進めていってほしいとの思いでございます。また、平成最後の定例会を大過なく終えられましたことは、議員各位をはじめとした関係者の皆様方のご協力ご尽力の賜物と大変感謝しているところであります。5月から新しい元号となりますが、三重県議会は、新しい元号での定例会でも、県勢の進展に今まで以上に寄与していくものであると、大いに期待をしておるところでございます。それでは、三重県議会 Facebook のページの開設について発表させていただきたいと思っております。三重県議会では、SNS等の特性を活かして、三重県議会に関する情報等を県内外に向けて広く迅速に発信し、開かれた県議会の推進に資するため、Facebook ページを開設いたしました。具体的な内容につきましては、広聴広報会議の座長である前野副議長のほうから説明させていただきますのでお聞き取りいただければと思います。よろしく申し上げます。

(副議長) それでは、私の方から、三重県議会 Facebook ページの開設について、

ご説明をさせていただきます。お手元の資料をご覧ください。資料記載にあるとおりでございます。本日、開設をさせていただきました。また、URLはご覧のとおりであります。なお、今月中は試験運用期間として、本格的な投稿は4月1日から行うこととしております。主な投稿内容につきましては、県議会の日程のお知らせをはじめ、県議会主催事業、催し物のご案内、ご紹介、議長、副議長の動きのご紹介などを予定しております。先ほど議長も申し上げましたが、私としましては、この取り組みによって、県民に開かれた県議会がさらに前進をしていくことを期待をいたしております。私からの説明は以上でございます。

(議長) 本日の発表事項は以上でございます。よろしく願いいたします。

2 質疑応答

○三重県議会 Facebook ページの開設について

(質問) いま、県民に開かれた議会を期待しているというお話がありましたけれども、これは若い方に県議会を知ってもらうきっかけになるというふうな効果を期待されているという理解でよろしいのでしょうか。

(副議長) Facebook のファンというのはですね、他県なんかの例を見ますと、大体数百人程度というところが多いようですけれども、当面その辺りを目標として、ゆくゆくは、将来はですね、数千人規模の Facebook ファンを目指していきたいと考えてまして。ターゲット、いわゆるターゲット層なんですけれども、大体若年層、特に Facebook のコアユーザーである年代層っていうのが30代～40代を中心にこちら側は勝手に考えておりまして、Facebook のですね個人的なこの繋がりを活用することによりまして、今までの県議会に関心の無かった人まで、それに、Facebook によってアプローチをしてもらえたらな、アプローチをしていこうかなと思っております。

(質問) 将来的に数千人規模と伺ったんですけれども、数百人程度、数千人程度の時期的な目標はありますか。

(副議長) 時期的な目標ってなかなか定めにくいと思うんですが、発信をして、皆さん方が Facebook を見て、三重県の議会の動きなんかを周知を、承知をしていただいてね、それで面白いなっていう感じに受け取ってもらえるような、そんな発信ができれば自然とユーザーは増えていくんじゃないかなと。それは議会事務局がしっかり頑張ってくれると思いますので、楽しみにしております。

(質問) これは全国でも早い方なのか、遅い方なのか。

(副議長) 全国でですか。

(質問) はい。

(副議長) 全国、すでに Facebook は12県で対応してもらっておるようです。Facebook の他にもね、ツイッターでやってる県が9県ありまして、それを合わせると21県が SNS を使って発信をしていると。

(質問) 延べ21県？

(副議長) はい。Facebook とツイッターとダブってやるとこもありますんで、延べの、トータルの数ではないですけども。

(質問) わかりました。ありがとうございます。

(質問) 事務局が発信するんですか。

(副議長) 事務局で発信してもらいます。

(質問) 多分、そもそもやっぱり議会の内容そのものがですね、ある程度面白いと思ってもらえないと、Facebook だけ、正直今もネットはホームページとか頑張っておられるとは思うんですけども、その内容を見たところでこれは面白いとかっていうような現状にはないかと思われるんですが、その中でただ Facebook をやってもあまり違いはないのかなという気はするんですが、その辺り、何か他県等の仕組みで目を引いてもらうようなことっていうのは可能なんでしょうか。

(副議長) 難しいですね。冗談的なものは書けないですし、事務局が作るものですから、本会議や委員会の中継をそのまま Facebook にあげてくっっていう感じになっていくと思いますし、我々議会の議長や副議長の投稿なんかも当然、投稿の中心的なものになってくんですが、面白いものを作るっちゃうのは、非常に難しいですね。これから研究を重ねて、興味をひいてもらえるような、そんな Facebook を作っていきたいと思いますんで、しばらく見守っていただきたいと思います。

(質問) わかりました。なんか、議員さん自らが、例えば多分、今こう注目を集めてる SNS だと、例えば動画で、自らが例えば番組をやってみたりとか、そのなんか、そのためのイベントをしてみたりとか、そういう質問を受けて、知事も今度やられるんですが、その程度のね、ここまでやれば多少は違うのかなという気はするんですけど、そこまでの熱意なり計画なりっていうのはどうなんでしょうか。事務局任せにしてたらそんなことにならないと思うんですよ。やっぱりもう少し議員さんが主体的に、もう改選なんであれですけど、ならないと、事務局がやりますだとあんまりそういう印象は受けないんですけど。

(副議長) おっしゃる通りかも知りませんね。委員会視察なんかも、動画配信は出来るような状況には多分出来ると思いますんで、その辺もしっかり検討して配信出来るものであれば、動画配信なんかもやっていきたいなど。研究させてください。

(質問) なんでこの時期でしたっけ。どうしてこの時期？やっど？

(副議長) 4月1日から実際には発信をするんですけども、これのちょうどいい機会、キリというんですか。

(質問) いやいや、今年、去年、一昨年、来年、やっど間に合った？今年。

(副議長) これはね、テレビでやってましたデータ放送が廃止することになりましたんで、そのデータ放送に代わる広報手段として、広聴広報会議で検討してきた結果ですね、広く、迅速に情報伝達できる開かれた県議会の推進に資するものとして、Facebook による情報発信を行なおうと、こんなふうに決めましたものですから、この4月1日からということになりました。

(質問) 年間運用費用って幾ら位なんですか。

(副議長) 0円だそうです。

(質問) 早速、見せてもらうときれいな写真とか写ってますけど、業者さんとかが入ってこの企画とかやるわけじゃなくて、完全に事務局でやるという理解でよろしいでしょうか。

(副議長) 完全に事務局でやっていただくことになります。

(質問) 桜田大臣の質問ではないけども、ご自身は Facebook やってられるんですか。

(副議長) 私ですか? やってます。

○議会改革について

(質問) 弊社で今日の朝刊から議会改革に関する連載をしているんですが、三重県議会は早い時期に議会基本条例を作って、その骨格をおそらく、執行部との緊張感のある関係を作っていくということですから、政策立案をしていくということだと思うんですが、鈴木知事になってから執行部提案に対する修正であるとか、それから否決はもちろんですけど、一度もありません。で、なかなかこう、緊張感のある関係というのがですね、率直に言って、なかなか見えてこないわけなんですけれども、一つには、執行部の側もかなりもう職員さんがいっぱい、会派室をぐるぐる回って、事前に友好的な関係を作るような努力をされてます。それがいいのかどうか別として、そういう面はあるとは思いますが、その辺り如何でしょうか。

(議長) 現実的には修正案等も近年無いような状況でございますが、議会のやり取り、あるいは、常任委員会のやり取りを見ていただいている中で、緊張を持って、質疑もされているところもあるかと思いますので、修正まで至っていないという、その修正までの議論がないという部分があるかと思います。自分がいつもお話しさせていただいている中で、やはり二元代表制であるならば、議会として一枚岩になりながら、執行部と対峙をしていく、そのことが一番ご指摘いただいた緊張ある関係に繋がっていかうかとも思いますし、ただ、その課題があってそれが出来ていないということではないと思っております。課題自体が、修正しなければいけない議案自体が最近無かったという部分であるかと思いますので、修正しなければいけないものを修正してこなかったという認識ではなくて、そういう部分については、個々の対応の中で、きっちりされてきたものだと思っております。

(質問) そういえば、今、予算審議が終わったところですけども、極めて厳しい予算審議で、かつその中で、やや総務省からみても、どうなんだというような借金の先送りなどもありました。で、そういったものがある中で、課題が無いという認識は、あまりに現状認識としてお気楽なんじゃないかというふうに思います。もう少し厳しい議論があってもよいと思えますし、それ以外にもですね、三重県の今の行政見てれば、課題はたくさんあると思えます。それに対

して課題が無いと、前田議長は、前から議会改革は進んでいると、これ三谷さんの認識としてはやはり今、昔せつかく良いものを作ったのに、少し最近形骸化していると、三谷さんはそう我々の取材にお答えいただいている。やっぱり議長というのは、改革に対してリーダーシップをとれる立場だと思います。一方で、最近はなかなか合意形成が定数の関係なんかもあって難しいのは事実ですけれども、議長2年間というのもそういう議長がリーダーシップをとれるようにしたはずなのに1年にした。やはり形骸化しているんじゃないかという指摘がそういう議会改革の中心になった人から出ている中で、少し議長の認識が甘いんじゃないかなというふうに印象を受けるんですが、如何でしょうか。

（議長）今朝の新聞で三谷さんのコメントを拝見しましたが、直接その話としては聞いておりませんので、この前の代表者会議で三谷会長の方から4年間の議会活動を振り返った中で、総括、あるいは、これからどうしていくのかという次期改選後の議会の申し送り事項等、代表者会議で報告もいただいたところでございます。その中ではやはり成果指標なり目標なり、そういったものを検討していくべきではないか。あるいは、意見の中では、通年議会が1月から12月ですから、4月から3月までの会期にしてはどうか。そういったご意見も賜っておるところでございまして、そういった申し送りを次期の改選後の中でも追って伝えていきたいと思っておるところであります。

（質問）この4年間は何が改革出来たんですか。だから、当然そういうPDCAを理解して回していくという考えはわかるんですけど、そこに中身が伴っていないんじゃないかと。要するに、仕組みとしては三重県議会には十分あるんだけど、そこになかなか中身が特にこの4年間も、仕組みとしてはやっているけれども、それがきちっと実際の改革に繋がってないんじゃないかという印象を受けるんですけど。じゃあ、この4年間受けて次に申し送りするのはいいんですけど、じゃあこの4年間は何が出来たのか。

（議長）ですから、代表者会議の中でもこの4年間を振り返った中で総括を。

（質問）いや、総括やって何が出来たんですか。県民に説明してくださいよ。この4年間議会改革は何が進んだんですか。

（議長）議会改革としてですね、基本は細かい話も含めてですが、政務活動費の領収書の公開等含めながら、少しでも議会として改革も進めながら、ご理解いただけなかった部分もありますけれども、そういった部分の中で議会基本条例に基づいて、災害対応も一つの改革だと思うんです。災害が起こった時に、

迅速に県議会として何をすべきなのか、そういったことを検討しながら条例改正も含めながら対応をさせてきていただいております。

(質問) 最後にもう1問だけ。結局、三重県議会というのは今制度を変えるところよりも、せつかくある制度を利用していないということの方が問題だと思うんですけれども。委員会の委員間討議といいながら、特に執行部提案に関しては委員同士が話をすることがなくて、基本的には執行部对各委員ということで、議会の中で委員同士が議論をしているという場面が執行部提案のものに関してはほとんど見られないんですね。これはやっぱり議員間討議が出来なければ合意形成にもならないですし、一番根本の部分だと思うんですけど、なぜかそういうふうになっている。仕組みはもう十分あると思うんですよ。どうすればいいとお考えですか。

(議長) ご指摘の課題については、従来からずっとと言われておりますし、先般の三谷会長の方からの次年度の申し送りの中でも議員間討議の充実というのがあったところがございます。私個人の考え方としましては、やはり委員長の裁量でもあろうかと思っておりますし、その進行の仕方の中で、議員間討議をして意見交換をする項目、テーマ等々を明らかにしながらテーマ設定をし、常任委員会、分科会等で議論を深めていくべきかなと思っておりますし、そのテーマが喫緊の課題としてたくさんある中でなかなかテーマ設定がしきれていないというのがあるのかなと思っております。

(質問) どうしたら出来るんですか。

(議長) ですから、先ほども言いましたように、常任委員長の裁量の中で議員間討議を。

(質問) いや、常任委員長の裁量に任せていたら、たぶん進まないじゃないですか。それを議長のリーダーシップなり、事務局の改善なりで、例えば出来る議会事務局の職員というのは、ここでこういうテーマにしたら、委員同士の話になるなというのをこっそり委員会の議事の中に上手く盛り込ませるとか、長年議会改革に携わっている先進県の議会事務局にはそういうことまで考えた事務局の職員がいたりするわけなんですよ。三重県議会は今そういうことになってないんじゃないかと思うんですけれども、もう少し具体的に、それは委員長の裁量じゃなくて、もう少し具体的な方法ってないんですか。

(議長) 委員会運営としては、委員長の裁量ですので。ただ、委員長会議等々、

全委員長お揃いいただき、私が会を進めながら委員長会議を開催させていただいております。その中では、そういった話もしながら、委員会の中での議員間討議を深めていただくためにそういったことも年間を通じながら当初にもお願いもしておりますし、議論を深めていただきたいということも申し上げておるところでございます。ご指摘いただいたように事務局でのサポートを含めながらですね、改善すべきところはあるかなと思っているところであります。

○三重県議会 Facebook ページの開設について

(質問) Facebook ページのですね、3番の主な投稿内容のですね、5番の各種会議の内容のご紹介というふうにあるんですけども、これは議員各自の発言などについても Facebook ページに出すものなのか、それとも今回の議題は、こんなものがありますという程度におさめるのかどのように考えられていますでしょうか。

(副議長) 本会議や委員会、代表者会議などの内容につきましても、動画等も含めて SNS で配信をしていくという、そういうことをしっかりやっていきたいと思っておりますので、それで如何でしょうかね。

(質問) 例えば、発言の要旨とかそういうものも掲載されるとなると結構、どのくらいの分量なのかとかですね、何を選択するかというのが結構、難しい。我々、報道でもですね、難しいなと思うんですけども、こういう SNS の発信をね。

(副議長) SNS で流す分については、こうした本会議や委員会やそういったものの要約版を SNS で流させていただいて、それから現実の議論になったものについては、貼り付けた、リンクを作ってそこを見てもらえるようにしていきたいと思っております。要約版を見てもっと中身知りたいなと思ったらリンクの方へ入っていただいたら全体が見えると。

(質問) わかりました。

(以 上) 10時55分 終了